

学校新聞



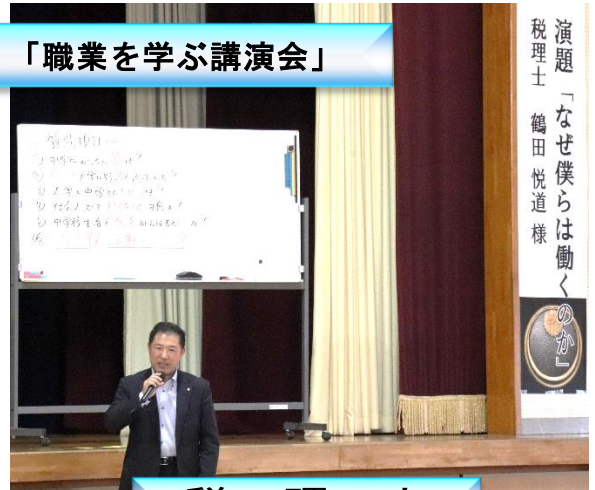
北美六



2年生 総合的な学習の時間 「職業を学ぶ講演会」



2019 観光大使おかざき



税理士

演題 「なぜ僕らは働くか」
税理士 鶴田悦道様

人は何のために働くのか

二年学年主任 廣瀬 浩司

当たり前に実施していた学校行事が形を変えることを余儀なくされた二〇二〇年。二年生の職場体験活動もその一つだった。体験できない代わりに、働くことに対して多様な価値観を子供たちに感じさせたいという思いから、九名の講師を招いて「職業を学ぶ講演会」を実施した。

すべての講師に、「なぜ人は働くのか」というテーマで話を聞いていただいた。子供たちも、講演前の授業でこのテーマについて話し合った。お金、やりがい、生活、人生を楽しむ、社会貢献……。当然答えはない。人それぞれの価値観があるからだ。講師が口をそろえて語ったのは、「お金はもちろん必要だけど……」。この言葉の続きこそが、子供たちに伝えたかったことであった。「人を笑顔にする」「自分に誇りと責任をもつ」「誰かを救えるやりがい」「常に挑戦し続ける」など、経験から裏付けされた様々な言葉が、子供たちの心に突き刺さった。

私が印象に残ったのは、税理士の鶴田悦道さんの人生観だった。

「人は、莫大なお金を手に入れても、働かないという選択をしない。地位財（高級車など他人と比較できるもの）を求め続けると幸せにはなれない。周りと比較するのはなく、自分自身で何かをやり切った感動ややりがいなど自分にしかないもの（非地位財）を手に入れることで人生が幸せになる。それでも一つ。家族や仲間などの人的資産を得ることで人生が豊かになる。人は非地位財と人的資産を得るために働くのではないか」

鶴田さんは、私が大学生の時にアルバイト先で知り合ってから二十五年以上の付き合いになる。当時、「廣瀬：俺の人生の目標は、死ぬまでにどれだけの人と関わることができかなんだよ」と語っていたことを鮮明に覚えている。

私にとっての人的資産はまさに鶴田さんという存在。そして非地位財とは、ムッキー生の笑顔や歯を食いしばって頑張る姿である。

中学二年生という今。子供たちにとって日々の級友との関わり、部活動や合唱で感動を味わうことが、とても価値のあることであると改めて感じる。

人権集会

個性の尊重

一年五組 畔柳さくら

最近、「いじめ」や「差別」という言葉をよく聞きます。また、「LGBT」という言葉も聞くようになりました。

人権集会の後に、学級で男女の性別に関わる授業が行われました。性別は「身体の性」「心の性」などに分類していくと男女の二種類だけでなく、十種類以上に分かれるそうです。でも、その中に異常な人などいません。もちろん、性別や性格などは人それぞれです。それはその人の個性であり、みんな普通です。その個性を一人一人が理解し合いい、尊重し合うことが大切です。一人一人が個性を理解し、尊重し合うことができれば、いじめや差別という言葉聞くことが少なくなっていくと思えました。

些細なことを大切に

三年三組 天谷 道拓

最近、ネット上での誹謗中傷に関するニュースをよく見かけ

ます。「六ツ美北 人権デー」の集会のあと三組ではなぜネット上のトラブルが起こるのかについて話し合いました。そして、孤独感を感じるなどの現実世界でうまくいっていないことが原因と考えました。そして、それをなくすために、どんな些細なことでも仲間のよいところを見つけ、「ありがとう」をたくさん言うことを人権宣言としました。この機会を通して、自分が何気なく言っている声掛けの大切さに改めて気付きました。これからは誰かの心の支えとなる存在でありたいと思います。

職業を学ぶ講演会

将来への興味

二年一組 名和 柑菜

私は、将来の自分が想像できません。同じような気持ちをもっている人も、少なくないと思います。

そのような中で、今回のキャリア講演会を通して、私たちは働く理由やヒントをたくさんも

らうことができました。そこで私は、なぜ働くのか考えていくうちに、少しだけ大人の自分がどうなっているのか知りたいなと、興味をもち始めていることに気が付きました。



元プロサッカー選手

心肺蘇生法

心肺蘇生法を体験して

二年二組 中島 一翔

僕は、心肺蘇生法の講習会を受け、応急手当を行う上で特に



心肺蘇生

大切なことを二つ学びました。一つ目は、スピード感をもって行うことです。傷病者がいた場合、具体的にAEDを持っていく人を指名したり、倒れている人の状態を素早く確認したりしなければいけません。二つ目は、落ち着いて行うことです。慌ててしまうとスムーズに的確な応急処置ができません。と思いました。

心肺蘇生法の講習はとても貴重な経験になりました。いざという時に、自分に行えることを最大限にできるようにしたいと思いました。

心肺蘇生法